

次に、27番高木議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。27番高木議員

27番（高木佐一郎君）〔登壇〕

それでは、私の一般質問をさせていただきます。私が今回、通告をいたしておりましたのは、財政の基本方針について。2、総合計画についてということであります。

昨日から一般質問が始まりまして、財政問題というのが、今回大きく皆さん取り上げられておりまして、既に昨日でも牟田議員、吉川議員、そして松尾陽輔議員が取り上げられております。そういう面では、実は私も全く同様な考えのもとに質問を組み立てておりました。具体的に重複をいたしますので、この分については割愛をさせていただきたいと思っております。

ただ、私も1点、市長の方にぜひお願いというか、要請をしておきたいのは、やはり一般会計、特に武雄市の財政というのは、全国の地方自治体の中でも大変小さな方の部類であります。例えて言いますと、軽トラックですよ。大きな福岡市に比べると、同じ地方自治体、同じ財政の中でやっておりますけれども、例えば、福岡市と武雄市といたら、本当に大型のダンプカーと小さな軽トラックという規模であります。ですから、軽トラックでありますので、非常に荷物をどれだけでも運びたい。気持ちは一緒ですね、運びたい荷物は同じだと思います、福岡市も武雄市も。ただ、やっぱり能力というか、それがある。ですから、小さな軽トラックであります。無理をすると、大きな破綻につながってくるというふうに思うわけです。ですから、荷物もそれなりに考えて、ぜひ運んでいかなければならないと思っておりますし、また私どもも市民もそのことを十分踏まえた上で、いろんな行政に対しての課題、要求を含めてやっていかなければならないというふうに思っております。

そういう面で、昨日市長が、取捨選択というのは議会サイドにあるんだ、市民サイドにあるんですよということを述べられました。そういう面では私ども議会も、あるいは市民サイドにとっても、十分先のことを考えて、全体的な状況を考えて、取り組みをしなければならないというふうに思っております。

一つ、夕張の問題を取り上げておりました。夕張市も昨日、いろんな意味で議論がされております。これは大変厳しい問題、ショッキングな事件でありました。一体何が原因で、なぜそういうふうになったのか。そういう面では、十分この武雄市もその教訓を学ぶべきであるというふうに思うわけです。これは朝日新聞の社説に、夕張の破綻の問題を取り上げられております。11月27日付の新聞であります。夕張市の破綻と題しまして、あなたのまちは大丈夫かという、そういう問いかけであります。具体的な破綻に至った経過、内容を書かれた後に、こういうふうにかかれてあります。結局、原因の部分であります。 「一昔前の大判振る舞いは異常なほどだった。6期務めた前市長は補助金や交付金を元手に、観光振興にひた走った。旧通産省が産炭地振興の名目で夕張市に渡した交付金は70億円に近い。住民には国の金が振りおりに見えたことであろう」ということで、いろんな施設をどんどんつくられていった。結果的にその施設がすべて裏目に出て、赤字ということで、それ

が一般会計まで負担を及ぼしたということでもあります。

さらに、前市長の責任だけではなくて、もう一つ、こういうふうに書かれています。「巨額の借金を認めてきた責任は市議会にもある。町内会長を議員にして議会の日だけ日当を払えばいいという住民の批判は当然である。住民も主権者としての責めを負う、行政サービスの低下のほか、地価の下落による資産の減少も避けられまい」ということで、議会と市民の責任もまたそこで触れられているわけでもあります。

そういう面を考えると、北海道の産炭地という条件がありながら、やはり武雄市も同じような状況が出てくるのじゃないかというふうに考えられます。そういう面では、昨日の質問に答えられて、市長は一寸先は闇である。財政的な問題は、そういう答弁で自覚をされているようでもあります。大変頼もしく思っているところでもあります。

そういう中で、一つだけ、ぜひこれは市長に見解をお聞きしたいということがあるわけですが、実は総務省は、地方分権21世紀ビジョン懇談会というのを発足させ、ことしの7月3日にその懇談会報告書が提出をされました。これからの地方自治のあり方について、大きくその方向を指し示したのであります。大変私は実はこの21世紀ビジョンを読んでみて、非常にショックを受けた者であります。それは何かと申しますと、実は破綻法制を検討することが載っております。いろんなキーワードは、自由、責任、自立ということでありまして、幾つかの項目、これから地方自治体としてしなければならない、考えなきゃいけない。例えば、新分権一括法を制定するとか、地方債の完全自由化であるとか、税源配分の見直しであるとか、いろいろな提言をされている中で、一つ、いわゆる再生型破綻法制の整備をしなければならん、それも3年以内だと。私はこれはどういう意味なんだろうかということ考えて、わかりませんでした。既に地方自治体、夕張市の例を見てもわかるように、財政的に行き詰まっていく、破綻をしていけば、いわゆる再生法という国の管理のもとで再生を図っていく。そういう制度が既にあるわけですね。それを見直すというのは、どういうことなんだろうかというふうに思っておりましたら、一つだけわかったのが、実はこれも市長の先輩であります、鳥取の知事であります片山知事が、日経新聞の方に提言として出されている中で、実は自治体には債務不履行は現状ではない。しかし、今後はその債務不履行も考えていくということも考えなきゃいかんということを提起されておりました。どういうことかということ、財政的に行き詰まっても、借金は今返していつているわけですね。例えば、夕張は幾らでしたかね、360億円の赤字、これは民間ですと、倒産になってペアになるわけですね。ところが、地方自治体の場合、360億円の赤字を出したとしても、その分は何十年かの計画の中で返していくというふうになっていますが、しかし、地方自治体においても、そういう不履行になるということも考え、検討しなきゃならんというふうに言っているわけがあります。

具体的にどういうことかということ、民間の場合、会社が破綻をする、倒産をすれば、会社

は責任を追及されます。ただ、ひどいときには、個人の資産まで全部投げ出せよというふうになるわけですね。ところが、地方自治体の場合、その破綻といっても債務不履行にならないということで、実は執行部も、それから議会も具体的な責任というのは問われてないんですよ。だから夕張の場合も、原因は6期務めた前の市長にあるんだということを指摘されておりますが、じゃあこの方に債務部分を私財をなげうって出せとかいうことはだれも言わない。議会は承認をしてきたけれども、その責任は道義的には問われているけれども、じゃあ議員で、例えば何百万円ずつ金を出せとか、そういう責任のとり方はしなくていい。しかし、今回、いわゆる21世紀ビジョンに出されているのは、そういうことを今から地方自治体も問われてくるですよということを言っているんじゃないかというふうに思ったわけです。そういう面では、これからの地方財政のあり方、地方財政というか、執行するあり方、あるいはそれを審議する議会、それを受ける市民という、この三者については、従来以上にさらに財政の問題についてはシビアな見方をし、また一つ一つの事業の精査をしなければならないというふうに思うわけであります。

そういう面で、これまで合併をしましてスタートしました。いろんな意味で、各1市2町それぞれの経過がありますし、いろんな意味で慣例といいますか、そういうものがあるわけでありまして。しかし、今から私はすべてのものをゼロベースで見詰めて、再度検討しなければならないというふうに思っております。ぜひこのことを樋渡市長にお願いをしてみたいというふうに思っております。

財政、大変昨日の質問にも、一つ一つの問題が取り上げられました。一般会計から特別会計に繰り出し、特に農業集落というか、下水道事業についての繰り出しというのは、大変大きな問題であります。一般財源から2億円から名目的には4億円ですが、250,000千円ぐらい繰り出しをしていかなきゃいかん。さらに工業用水も出されております。毎年60,000千円の金が工業用水に繰り出していく。そういう面で、ぜひこの厳しい状況を考えた上で、今後の財政運営をしていただきたいというふうに思っております。

ということで、まずは夕張の問題、財政の問題含めて、市長がどのような考え、これからの10年。昨日の質問では10年間は我慢の時期だというふうにおっしゃいました。そういう面で、その具体的な考え方をぜひお聞きをしたいというふうに思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

先ほど破綻法制の話が議員から紹介がありました。私、先般、東京に出張したときに、ある政府関係者と懇談する機会がありました。そのときに言われたことがショックですね、その日は夜も寝られんやっただすね。というのは、これから先の自治体は、市長、会社と一緒にいるばいと。今までの自治体は社会を扱いよったと。しかし、あなた方の市町村という

のは、ある意味、会社になると。それどういうことですかと聞いたわけですね。この人は政府の中でも影響力のある人です。これから先、あなた方市長あるいは議会が、人口をふやしました、あるいはこういうふうに税収を上げました。そしたら給料は上がるでしょうね。しかし、破綻しました。破綻の一步手前です。これは市長、これは市役所の職員は関係なかかもかもしれません、わかりません、それは。議会と共同責任、そういう意味での私財の投げ出し等々はあるでしょう。そういう意味での意識をきちんと持ってくださいということ言われたわけですね。だから私はもう恐らくその方向に進むというふうに思っています。現に交付税の扱いが、新型交付税とあるように、面積と人口要件になっていくわけですね。これ道州制にも絡んでいると思います。面積をふやしていく、あるいは人口をふやし切らん自治体というのはつぶれなさいと。私はそういうふうに厳しく実は受けとめています。いいか悪いかは別にしてですね。そういう意味で厳しさということに関して言うと、きょうの日経新聞にも載っておりました。財務省がもう交付税を減らすと。その一連の流れに議員がおっしゃったこと、私が申し上げておることがそこにあるもんだというふうに思っております。これ事態が好転するかといったら、決して好転はしない。しかし、頑張った自治体に対しては、安倍総理がおっしゃっているように、きちんと、それはごほうびを与えますと。だから、今まで頑張っても頑張らんでも一緒やったわけですね。自治体というのは、自主財源を幾ら上げても、その交付税は減らされよったわけですね。そいぎ頑張る気にならんですね。しかし、今厳しさを突きつけられておるわけですね。会社と同じで、うまくいくところについては、国も後押ししていきますと、だめなところはもう住民含めて責任をとりなさいと。それが夕張市の例ですもんね。だから、そういう意味でのこれからのまちづくり、自治体としての生き残りをかけて、本当に私は命をかけてやっていきたいというふうに思っています。その上で、議会並びに市民の皆さんたちに呼びかけたいのは、もう今財政というのが、ある意味じゃメタボリックシンドロームになっておるわけですね。これはどこの自治体でも一緒です。本来やるべきところに金の回とらんという部分があります。だからこそ市民の皆さんの批判とか、議会でこういうふうにここをやるべきだというところがあります。だから、議会の皆さんとか市民の皆さんたちには、行政、市全体のメタボリックシンドロームがどこにあるかというのをまず見つけてほしいと思いますね。その上で、これをすべきだ、あれをやりなさいということに関しては、私は真摯に耳を傾けようというふうに思っています。そういう意味で、10年間はその次の世代に武雄市を譲り渡すための私は我慢の時代、スリム化の時代だというふうに思っています。

その上で、私は一つ提案したいのは、ほかの自治体と同じことをしよると、もうつぶるっですね。私もつぶさに勉強をしてきました。今でも勉強しています。ほかの自治体の並びでしよったら、今はもうインターネットの時代です。即座にまねされるわけですね。だから、ほかの自治体がまねのできないようなこと、これはすなわちソフトになると思います。ハ-

ドは銭がかかるけんですね。ソフトで武雄の優位性をどういうふうに出すかと。そういう意味で私は議会の皆さんたちのおかげをもって、「がばいばあちゃん」がもうほぼ成功しつつあります。だから、ここに徹底して私はいろんな資源とか人的な能力とかというのをつぎ込むべきだというふうに思っています。それで、私は外から人に来てもらって、あるいは地域の皆さんたちが、ああ武雄でこがんマスコミに出よるとか、あるいはこういうふうにするばらしかと言われたと、そういう自己満足というの私はいいい意味で大事だと思います。そういう意味でのソフト的な施策の展開というのを絶対やっぴかんばいかんというふうに思っております。その分に充てられる投資の枠、これは広い意味での投資的経費というかもしれません。それは十分私は確保すべきだというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

27番高木議員

27番（高木佐一郎君）〔登壇〕

ありがとうございます。私も全くそのとおりだというふうに思っております。私は私なりの、30分の1でありますけれども、またそういう面では努力を続けていきたいというふうに思っております。

続きまして、総合計画について、お尋ねをしたいというふうに思います。

まずちょっと苦言なんではあります、実は新しい総合計画、今、策定中ということで、今年度いっぱいかかって策定をされるわけではあります、苦言というのは、実はこの総合計画が実際今、策定をされているということの認識が、市民の中でどれくらいあるんだろうかということでもあります。

総合計画というのは、先ほど10年の計画というふうにおっしゃいましたけれども、まさにそういう面では、これからの武雄市の行政の背骨です。そういう面では、この総合計画がいかに市民の中に定着をするかという、知って、それを生かしていくのかということを考えなきゃいかんと思います、苦言というのは、実は市民意識調査、1,000人とらわれている。ところが回答は399、4割若干切っているということです。ここに今、市民の皆さんが総合計画あるいは行政に対しての一つの回答があるのではないかというふうに思うんです。まだまだ一生懸命、今いろんな意味で行政も市長初め先頭切っているような市民に対してのアクションを起こされていますが、そういう面では、まだまだなんだということ、ぜひ自覚をしていただきたいというふうに思います。最終的にもう一回くらい調査をされるかと思いますが、その分については、これが逆転をして6割以上、9割近くの方が関心を持っていただける。そういうことに今後、総合計画については、策定段階において努力をしていただきたいというふうに思っております。

そういう中で、この総合計画について、私は幾つか資料を読んでおりました。冒頭に申したように、武雄市というのは大変小さなまちで、そういう面では九州の片田舎にあるまちで

ありますが、これがどうやって生き残っていくのか。そのことを考えたときに、やっぱり10年を考えた投資ということが必要である、私もそのように思っております。

これは私の例ですが、市長にぜひ紹介をしたいというのは、実は北海道の池田町、ここはワインの町で大変有名であります。市民の皆さんも池田ワインということはある程度知られている。どこにあるかというのは、実は僕もわかりませんでした。インターネットで調べて、地図を見て、名前は知っている。たまたまそのワインをスタートさせた町長のその文があるわけであります。これを読みました。実はずっと前に持ってあったんですが、一度も目を通したことがなかったんですが、見ましたけれども、いろんな意味で困難、挫折含めてやっている。しかし、今、20数年たって、池田ワインというのは、まさにブランドになっております。そういう意味で、ぜひこういう取り組みもぜひ参考にさせていただきたいと思っております。

そういう面で、やっぱり10年、20年、ブランドと簡単に言いますが、ぜひブランド化したいと、きのう市長もいろんな意味で考えていらっしゃると思いますが、そのブランドにするためには、いろんな意味で、10年、20年、期間を通して、いわゆる試練を通してそれができてくるものであるというふうに思うわけありますので、ぜひ少々の失敗でもめげずにやっていただきたいというふうに思います。

それから、もう一つは、実は福岡県の飯塚市をぜひ僕は勉強したいなというふうに思っております。というのは、ここは御承知のとおり、飯塚といえば炭鉱のまちでありました。旧筑豊炭鉱の中心の都市であります。ですから、炭鉱が次々に閉山をしていく中で、飯塚というのは大変まちの力が衰えていって、もうそれこそ「東京タワー～オカンとボクと、時々、オトン」という小説が大ベストセラーになったですね。ああいう中に出てきているように、本当にすさんだ地域だったんです。ところが、今は非常にまた飯塚市というのが変わってきております。なぜ変わってきているのかというと、実は飯塚市は、昭和41年、炭鉱閉山の後、近畿大学九州工学部と短期大学を誘致をされています、産炭地の後。昭和61年に九州工業大学の情報工学部というのをまた誘致をされています。九州工業大学は北九州ですから、その情報工学部というのは、実はその分だけ飯塚に校舎が別にある。そういう意味では、ちょっと合併後ではありますけれども、合併後、人口13万3,000人の約4%、約5,000人が理工系学生及び研究者という人材の集積ができています。それをもとに、今、まちづくり、これからの産業展開ということをしてあるわけですね。

そういう面では、投資というのは非常に重要だというふうに思います。投資ですから、1年、2年で成果が出てくるものではありません。「がばいばあちゃん」という話がありました。これは今は確かに投資としては目に見えるものというのは、なかなかないと思いますよ。それで観光客がぞろぞろ歩くとか、温泉街にお客さんがあふれているとか、そういうことはないと思う。しかし、これが一つの芽なんですよね。だから、この芽をどうやって、

どういう方向に育てていくのかというのが、また一つの力量の問われるところであるというふうに思います。

それから、前、市長がいらっしやいました高槻市の隣の京都市。京都市というのをずっと調べておりました。僕は京都というイメージは、神社・仏閣といいますか、昔のお公家さんではなく、そういうまちだというふうにイメージとしてはありました。もちろんそういうまちづくりをされているということもありますが、しかし、実は京都はもう一つ別の顔がある。それは極めて先進的な物づくりのまちなんですね。あそこを調べると、びっくりするように、もちろん物づくりのまち、最先端のナノテクノロジーとか、バイオテクノロジーという形でされている。それはもちろん、あそこに学研都市が京都大学をトップにいろんな意味で、知識というか、もとなる部分がある。しかし、それを生かしていく、そういう京都市の戦略というのがそこにあるわけですよ。だから、京都はあと100年もすれば、確かに神社・仏閣のまちというよりも、いわゆる最先端の工業の都市だというふうに、もしかしたら世界的には評価されるかもしれない。そういう戦略的な投資をされているということを紹介したいというふうに思います。

そういう面で、武雄市、大変小さなまちであります。何かからどう手をつけるのかというのは非常に難しいところがあるわけですよ。そういう面では、定住というのは、人口をふやすというのはなかなか難しい。しかし、交流人口、市長がおっしゃいましたように、ソフトの部分でお客さん、交流をする人口を増やすということは、一つの大きな柱というか、まず何をもってそれをしなきゃならんことだというふうに思うわけであります。

そういう面で、これからの武雄市、どういう戦略、どういう方向を考えるのか。総合計画の中にも、ぜひそういう面の一端を将来的な武雄市の進むべく方向について盛り込んでいただきたいというふうに思うんですね。大変厳しい厳しい、もう本当にきょうも宮本議員の話に、大変厳しい状況です。しかし、厳しい厳しいだけでやってはいけませんので、「がばいばあちゃん」のあったとき、きつか話は夜するな、昼間せると。あれは本当にそうだと思います。ですから、きつか話は笑って話そうということで、将来的な話も先にぜひ市長はどういうふうに考えているのか。30代後半であります。ある面では人生の半分ですよ。そういう中で、これからの武雄市の未来について、ぜひ戦略について語っていただければというふうに思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私は、2段ロケットを考えています。まず1段目は、武雄ということを知られんばいかんというふうに思っています。これは武雄市内の方あるいは外の方、いろいろ知られんばいかん。人はやっぱり特に日本人の場合は保守的やけんですね、例えば、同じ条件でいったとき

に、武雄と湯布院を並べたときは、仮に同じ条件だとしますよね。私も武雄の方がよかと思えますよね、湯布院よりは。歴史もある、湯布院はなか。どっちに行こうか。多分同じ条件だったら、100人に95人ぐらいはこっち行こうと。世の中いろんなあまの何とかさんもおんさあし、この出身の人もおんさるかもしれんけんが、5人ぐらいが私は武雄というふうと思うとですね。だから、同じ条件でしたときに、何が来てもらえるか、あるいは満足度をするかといったら、これはやっぱり知名度です。私はブランドブランドと言うて、何かブランド好きんごとっ思われておるばってん、そうじゃなかとです。ブランドというのは、まず最初に知名度です。知られんばいかん。私はそういう意味でブランド戦略というのは、武雄といったら、大体どこにあるね。それで知ってもらうところに私は最初の戦略を立てたい。これやっぱり私の樋渡市政の1期目、4年たったときに、私は先般、早稲田大学で講演をしました。100人のうち、何人の方が武雄を知っとんさったか御存じでしょうか。1人。しかし、その武雄もカンボジアのタケオ県やったわけですね。これ私、笑い話としては聞けんやったですね。だから、私の目標は、4年たったときに、また同じところで講演しようと思っています。そのときに、やっぱり少なくとも20人から30人の方々が、ああ武雄てあそこねと。まず位置を九州のあそこと、何か元気なことをしよるところねというところをまず認識してもらいたい。実際、嬉野市は100人のうちにもう20人から30人知っとんさあとです。それだけやっぱり差のあるわけですね。だから、非常にそういう意味で、まず知られること、あるいはブランドとして発信することに私の仕事の第一があるというふうに心得ております。

その上で、私は第2段階として、私は夢と希望があります。武雄のことで新聞記者さんたちともよく話をします。そして私も外の目から見ます。まだ帰って1年もたっていません。そういう意味で、武雄市にはいっぱい埋もれた財産があるわけですね。一番強みは、武雄には歴史と文化があるということです。これはどこの温泉地で見ても、歴史と文化があるところというのはないです。名湯百選をひもといて見てもらっても。そういう意味で、その埋もれたとをいかに上げてきて、皆さんたちの誇りに思えるか。そしてそれをぜひビジネスチャンスにしたいわけですね。

だから、実は私、選挙期間中によく話をしましたけれども、群馬県の嬭恋村の話をよくしました。ここ、キャベツの農家の皆さんの平均所得は10,000千円超しておるそうですね。それだけキャベツがブランドになっておるわけです。しかし、嬭恋村の横の北軽井沢のキャベツ、私食べてみてわからんやったです、どっちがどっちじゃい。あるいは大豆もそうです。丹波の大豆と武雄の大豆と、私は武雄の大豆がおいしかと言うたです。しかし、値段は5倍から10倍で売れるわけですね。だから、そういう意味でのブランド力というのをきちんとつけて、いろんな戦略はありますけれども、武雄を総体として誇りに思ってもらえるような、また外から来てもらえるようなまちづくりにしていく。そこに武雄の活路があると私は思います。



総合計画には、そういった精神をきっちり私の方からも盛り込んでもらいたいと思いますし、なおかつ一つ話はずれますけれども、いろんな意味でのユニバーサルデザイン、これをぜひ取り入れていきたいと思います。ハードのユニバーサルデザイン、これバリアフリーもあればですね、武雄市というのは、ああわかりやすいね、元気なところね、あるいは親切ねというところも私は広い意味でのユニバーサルデザインというふうに思っています。受け入れられるという意味で。そういったことで私は総合計画の中に、そういった思想を盛り込んでいただければありがたいというふうに思っております。

一朝一夕ではいきませんが、10年たったときに、ああ武雄はよくなった、変わったというふうに思ってもらえるようなまちづくりを私自身が先頭に立って、議会の皆さんのお力をかりながら頑張っていきたいというふうに決意をしているところであります。

議長（杉原豊喜君）

27番高木議員

27番（高木佐一郎君）〔登壇〕

ありがとうございます。本当に私も実は同じように考えます。若さが違いますので、行動力は若干かなり私も劣っておりますけれども、そういう面では、一生懸命またともに頑張りたいというふうに思うのであります。

具体的に私もそこで一つ、武雄をどうやって知名度を高めるかという話であります。実は私は福岡県生まれでして、実は20歳過ぎまで武雄市というのを知らなかったんですよ。何で知ったかという、実は大学時代、ユースホステルというサークルをしております、そのサークルが実は武雄にユースホステルが新しくできた。じゃあそこに行ってみようということで、武雄温泉というのを初めて知ったということなんです。ですから、自分たちが思っているよりも、周りの人たちというのは、本当に今武雄というのを知らない。ただ、樋渡市政が誕生しまして、私はいろんな県内の市会議員の知り合いが、武雄は本当によく新聞に出るのと。おまえのところはよく頑張るよのという、悪かところもちょっと出たりいろいろしておりますけれども、そういう意味では、本当に新聞に必ず登場してくる。そのことが一つの芽なのかなというふうに思っております。ぜひそういう面では武雄市の知名度を上げていく。

具体的に私もそこで考えているのは、実は福岡市にアンテナショップをぜひ出したらどうかというふうなことを考えております。前のときに旧武雄市時代に、大阪や岡山、広島、福岡にアンテナショップを出したらどうかという提案をしたことがあります。そのときはいろんな意味で、ちょっと時期尚早ではないかという考えのもとで、この提案は取り上げられなかったんですが、今回はぜひ、とりあえず福岡市にはアンテナショップを出したらどうかというふうに思うわけでありまして。もちろん、福岡市に出すというのは、一つは福岡市の人口100万人を超える人口、周辺を加えれば200万人に近い人口があるということと同時に、

実は福岡市というのは今、いろんな全国各地から福岡に観光に来るといふ、あるいは仕事に来るといふことが非常に多くなっております。ここに貨物・旅客地域流動の概要といふことで、国土交通省の資料なんでありまして、これは北海道から九州までの全地域の流動をどのような目的、どういふ機関を使つて動いていふのか。どういふ目的で行つていふのかといふ調査をした部分があるんです。その福岡といふのを見たときに、福岡市にどういふところからお客さんが来るかといふとも非常に全国区、特に福岡県はそんなでありますけれども、岡山からこっち九州側、それから一番驚いたのは熊本が非常に多いんですね。この調査表で見ると、佐賀からが一番多いんですけれども、福岡市には、佐賀、唐津方面からが1日に2,300人。ところが、熊本からは1,000人を超える方、半分。

僕は先日、九州国立博物館に行きまして、実はたばこを吸つていたんですよ。入る前にいふことでたばこを吸つておりました。やっぱり同じような方が、大変寒い中でしたので、震えながらたばこを吸つていたら、同病相哀れむじゃないですが、大変ですよといふ話をしたら、お客さんが、おたくはどちらですかといふ話で、いや僕は隣の県ですよといふたら、実は私、長野県からですよといふ話です。団体の若い方だったんですよけれども、長野のどちらですかといふたら、松本ですよといふ話で、私、毎年りんごを送つてもらつていふんですよ。佐賀にもぜひ来てくださといふ話をちょっとしたんですが、やっぱりそういう面では、福岡市といふのは、人口だけじゃなくて交流の拠点になつていふ。そういうところにぜひ情報発信を置くべきではないかといふふうに思つたわけですよ。今、じゃあアンテナショップつくつて、何を出すのか。そこはいろいろな意味があるかと思つたんですが、やっぱりそういう拠点があるかないかによつて違つてくるんじゃないかといふふうに思つた。

前回のときは、佐賀県が出してありますからといふことであります。佐賀県が出してあるところを見に行きました。イムズビルの7階ですよ。お客さんだれもおらんやっただよ、残念なことによですね。そういうことによあります。ですから、やっぱり単独でやらないと、見えないんじゃないかといふふうによ思つた。出すものは、それこそ日頃から市民の皆さんに協力を求めればかなりできるんじゃないかといふふうによ思つた。

それから、もう一つ、商工観光課をぜひ町中に出していただきたいといふふうによ思つた。庁舎にあるといふことも確かに一つの方法ですよ。しかし、それは行政上のいろいろな意味で、連絡かれこれが大変便利であるから庁舎にあるわけによあります。そういう面では理解できるんですよ、しかし、商工観光の場合、お客さんが外側にいらつしやるわけによありますので、ぜひ商工観光課は町中に出していただきたいといふふうによ思つた。空き店舗その他といふこともあつてありますが、ぜひやっぱり外から、だれでもそんなんですよ、よくわからないところから来ると、一番先に考えるのは、僕もあちこち行つたときに、町中の観光センターをまず探すんですよ。そして地図を下さいといふて地図をもらつて、その観光の地図をもらつて、それで回るといふことがありますので、やはり武雄のシンボルは温泉であり、

その商店街でありますので、やっぱりそのシンボルの近くに商工観光課というか、拠点が無いというのは、ちょっとやっぱりおかしいのじゃなからうかというふうに思っております。

それから、3点目、知名度アップで、スポーツの関係なんですけれども、武雄には公式試合をするところが実はそういうフィールドがないということは、きのう上田議員がおっしゃってました。野球場をぜひということでありました。私も野球とまで言いませんが、パークゴルフとかやっておりますので、そういう面ではパークゴルフなんか非常に今最近盛んになってきて、県内の一大拠点は武雄市ですね。協会の会長も事務局も全部こちら、武雄市でやっておるんです。そういう面では、そういうパークゴルフの公式戦ができるような、そういう場所がやっぱり欲しいなというふうに思っております。これは大きな施設が要るわけでもないわけです。要するに面積が確保できれば、協会その他でされるというふうに思うので、ぜひこの辺は検討していただきたいということと、もう一つは、実はちょっと大ぶろしきなんですが、2年後到北京オリンピックが開催されますね。私はその北京オリンピックのキャンプ地に武雄がぜひ名乗りを上げてもらったらどうだろうかというふうに思うんです。市長は前、沖縄でしたかね、プロのキャンプを誘致したという、そういうこともちょっと話をされてました。プロ野球とかサッカーといえ、とてもじゃないけど、ちょっと無理です。しかし、ちょっとマイナーな競技については、合宿とかキャンプというのでは、提案次第によっては来るのではないかというふうに思うんですよ。

宮本議員が自転車の話をされてました。ツールド何とかをぜひやりたいというので、市長もおっしゃってました。姉妹都市であります北海道の雄武町、実際あそこはオホーツク海の沿線の自転車のツールド何とかというのをやっていますもんね。その期間についてはかなり来られます。そういう面では、自転車でもいいし、あるいはバドミントンの女子でもいいし、(発言する者あり) 済みません、女子というのはただメダルを取れるということでは、男子よりも女子の方が非常に今、銅メダルを昨日取られましたので、そういう面ではキャッチアップができるのではなからうかというふうに思うからであります。

そういう面では、いろんなことができるんだというふうに思うんですよね。保養村もあります、合宿をする施設はあるわけですよ。ですから、オリンピックといえ、日本みたいな国もあれば、派遣をするのがやっとなような国もあるんですよね、実際。そういう面では、ぜひ武雄がそれなりに対応いたしますよということであれば、またできるのではないかというふうに思います。やってもともと、やらなければゼロというふうに私は思います。これからのスポーツの合宿地として、学生とかいろんなところで武雄を売り出していくということも必要ではないかというふうに思います。施設はあるわけですよ。試合じゃありませんので、公式の部分には要らないわけでありまして、公式のフィールドは要らない。フィールドがあれば何とかなるわけでありまして、そういう面ではやって損はないなというふうに思

うわけではありますが、こういうことは提案としておきたいというふうに思います。何か市長の方で考えがあれば回答をいただきたいというふうに思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

まず順番に答えたいと思います。アンテナショップに関しましては、私は議員と意見を異にしております。ただ、私もイムズのところに行ってみたですね。私が行ったときも、私以外だれもおんされんやったですね。ということで、これは補助金の見直し、武雄市負担金は662千円、大田副市長にまたよく相談して、これは見直す方向で考えていきたいと思います。やっぱり費用対効果のないところは、私はだめだというふうに思っております。そういう意味で、私はこれを考えていきたいというふうに思っております。

その上で、皆さん御存じでしょうか。万葉の湯、私は入ったことなかくです。しかし、JRの博多駅に太か看板のあるですね。万葉の湯と。きょうパネルを持ってきておりません。それで、そこに湯布院と書いてあって、武雄温泉と書いてあるですね。これ何億円の広告価値があるか。あれ見て、湯布院は込んだっけん、武雄温泉に来ましたという方を私は何人か、元湯のところで話を聞いたことがあります。ああ、なるほどと思いました。アンテナショップのようなハード戦略よりも、そういう広告であったりとか、そういうソフト戦略がこれからあるのかなと。幸いなことに、きのうも申し上げましたけれども、がばいのおかげで、武雄には注目が一点集まっております。新聞にも今載っております。そういう意味で、武雄ということが何年か前からすれば、すっと入っていけるような状況下に少なくともあると思います。そういう意味でのソフト戦略を必死になって考えていきたいと思ひますし、その広告の予算は、ぜひ本年度の予算で計上したいというふうに考えています。これは独立して。これは議会の皆さんのお許しがなければなりません。そういう意味で、しっかり詰めていきたいというふうに考えております。

また私が注目しておるのは、物産展です。私びっくりしました。福岡大丸で山内の黒米であったりとか、黒大根であったりとか、飛ぶように売れたらしいですね。私はちょっとほかに用事があったので、済みません、行けませんでしたが、後でつぶさに報告を伺いました。なるほどと思いました。物産展というのは、いろんなところはまだ取り組みの甘かですね。一生懸命しよるとは沖縄と北海道ぐらいです。この物産展をうまくチンゲン菜であるとか、黒米であるとか、あるいはがばいであるとか、そういうブランドとブランドをひっつけて、そういう物産展を中心とした展開ができないか。これも経済部を中心に今後考えてもらいたいというふうに考えております。

もとより今のところは、アンテナショップについて、あるいは広告戦略について思うところは以上であります。

次の商工観光課です。私は商工観光課よりは、むしろ観光協会です。観光協会の方々にもっと表に出てほしいというふうに思っています。そういう意味で、私はもう観光協会と商工観光課が別々にあること自体が、私は腑に落ちんわけですね。どちらも限られた人員でしょんさあです。私はこれが1足す1は3とか5にして展開をすべきだというふうに思っておりますし、新観光協会は、新駅の下のところできると、観光総合センターですか、そういったところの前に、まず、ある意味での一緒に観光戦略を考えていけるように私はしていかなければいけないと思っておりますし、今私はうれしいことがあります。商工観光課の皆さんが、「がばいばあちゃん」の黄緑か、どこから見てもあれわかるですもんね。あれを着て、まちじゅうをさるきよんさあです。私はこれは非常にうれしく思っています。そういう意味で、あの緑のジャンパーを見たら、これ青でもよかかもしれません、黄色でもよかかもしれません。そういうふうに歩きよんさあと。だから私は観光協会の方々とか観光課の皆さんが、もう背広で歩く時代じゃなかと思っております。はっぴでもよかと思っております。そういう意味で気軽に声をかけられるような、そして温泉通り、黒髪とか、そういったところに入っていってもらって、生のニーズを聞いてきてほしいというふうに思っております。そういう意味で、観光協会に期待をしております。

次のパークゴルフです。パークゴルフについては、今のところ整備計画は、済みません、ありません。今、保養村のふれあい広場であるとか、山内町に民間施設の山内パークゴルフがありますので、まずその活用を考えていただければありがたいというふうに思っております。

最後に、オリンピックの事前キャンプ地の話であります。よくよく考えてみれば、北京空港から2時間（「1時間」と呼ぶ者あり）1時間、北京空港まで。（「実質1時間。こう回したら東京とあんまり変わらん」と呼ぶ者あり）そうですね、コンパスで描けばですね。1時間から1時間半ぐらいかかるといったときに、恐らく各国の選手団が何を思うか。事前キャンプ地は3点セットと言っていいですもんね。一つが十分な練習の場所。もう一つが本体会場に近いかどうか。それともう一つが、地元の皆さんたちのもてなし力というところでですね。武雄はナイスチャンスだと思っております。

そういう意味で、ひとつ武雄の優位性は競輪があると思っております。今度、北京オリンピックを調べよったら、競輪というか、ツールド北京というんですかね、ああいったロードのレースも開催されるやに聞いておりますので、そういう意味で、実は今、某代理店に走り回ってもらっています。これは余り言うと、また新聞に載るけんですね、言われませんが、そういう意味で走り回って、それが相整った段階で私は事前キャンプ地の名乗りを正式に上げたいと。これはそうなる前に議会の皆さんたちに、十分また御負担をかけることになろうかと思っておりますので、諮った上で名乗りを上げたいなというふうに考えております。武雄はそういう意味で、非常に優位性があるところだというふうに思っております。できれば、フラ

ンスチームとかベルギーチームに来てもらって、ボンジュールと言われたかですね。それで子供たちが武雄にオリンピックチームが来てくんさったと。これどれだけの財産になるか。私はそういう意味で、今後、皆さんのお許しをいただければ、トップセールスで動いてまいりたいと思っております。

以上です。

議長（杉原豊喜君）

27番高木議員

27番（高木佐一郎君）〔登壇〕

問題は武雄をいかにアピールするか、そのアピールの方法だというふうに思うんです。いろんなちょっとアンテナショップは副市長には逆にやぶ蛇で申しわけなかったんですが、やっぱりする以上は効果的にしなければならんというふうに思うわけでありまして。やっぱりそういう面では、佐賀県のあの場所はまだ一遍考えていただいて、外れても私はいいと思うんですよ。もっと効果的に使えるような、そういうものを検討していただければ、市長も多分補助金を外すということは言わないだろうというふうに思うので、よろしく検討の方につないでいただきたいと思います。

最後にオリンピックの関係です。オリンピックは選手含めて大勢の方が北京に集結をしますけれども、選手の部分はその事前1カ月前ぐらいから既に事前の準備に入っている。北京と日本は、武雄市、福岡市、福岡空港、こう回すと東京と北京というのと余り変わらない距離ですよ。気候風土は多少の違いはあるかもしれませんが、しかし、ある面では前のサッカーのとき、ワールドカップ日本と韓国で共催したときのワールドカップの上津江村じゃないんですけれども、ある面では大変大きなPRにはなるというふうに思うし、ツール・ド・フランスのフランスチームとかドイツチームとか来れば、もっと大きなPRになるというふうに思うので、ぜひ御努力をお願いしまして、要請をしまして、私の一般質問を終わります。